

令和6年度こうとう学びスタンダード定着度調査結果について

1 調査の概要

(1) 目的

- 児童・生徒に確実に身に付けさせたい内容を明らかにし、すべての学校でその定着を目指す「こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）」の定着状況を把握する。
- 各校でスタンダードを確実に推進し、さらにその内容の定着を徹底させるための授業改善を図る。

(2) 調査対象 ※特別支援学級（固定）の児童・生徒はそれぞれの状況に応じて実施

- 小学校及び義務教育学校（前期）2～6学年児童 21,201人実施
- 中学校及び義務教育学校（後期）全学年生徒 8,363人実施

(3) 調査方法・内容

- 選択、短答及びアンケート形式による。
- 小学校及び義務教育学校（前期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・算数 ・英語
- 中学校及び義務教育学校（後期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・数学 ・英語

(4) 調査実施日 令和6年4月24日（水）

2 調査結果の概要

(1) 小学校及び義務教育学校（前期課程） 《冊子 P.7》

○ スタンダード定着度調査結果（各教科）

教科全体の区平均正答率について、昨年度と比較すると、5年英語、6年算数、6年英語で正答率が向上している。国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数「数と計算」、では、全ての学年で区平均正答率が70%～80%台と良好であった。英語の区平均正答率が5年は90%台、4年、6年は80%台であった。

○ アンケート結果

「学校生活は楽しいですか」の項目に肯定的に回答している児童の割合は、全学年で88%を超えており、令和5年度と比較すると4年・5年・6年で増加している。

(2) 中学校及び義務教育学校（後期課程） 《冊子 P.103》

○ スタンダード定着度調査結果（各教科）

教科全体の区平均正答率は、昨年度と比較すると、2年（8年）は同率であったが、他の学年・教科では昨年度を下回った。チャレンジ問題については、昨年度を上回る教科もあった。1年（7年）英語は全ての領域で区平均正答率が80%～90%台と良好であった。

○ アンケート結果

「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に肯定的に回答している生徒の割合は、令和5年度と比較すると2年（8年）、3年（9年）で増加している。

3 調査結果を生かした今後の改善

- 主体的な学び、習得した知識の活用を促す授業改善
- タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現
- 各校における授業スタイルの確立と実践
- スタンダード強化講師の効果的な活用
- 個に応じた支援の充実